

令和8年 6月 9日

恵庭市議会議長 川原 光男 様

会 派 名 恵庭市議会公明党議員団

代表者氏名 野沢 宏紀



政務活動費結果報告書

恵庭市議会政務活動費の交付に関する条例第7条第1項に基づき、当派の令和8年度研究研修結果報告書について、次のとおり報告します。

記

1 研究研修期間 令和8年5月21日（木）（1日間）

2 内 容

研究研修名	「小樽市官民連携プラットフォーム otaru open base」の取り組みについて（北海道小樽市）
研究研修会場	「北海道小樽市議会」（5月21日）
参加人員	3名（野沢宏紀、松島緑、生本富士代）
研究研修内容	別紙のとおり

（研究研修資料／別紙のとおり）



令和8年6月9日

恵庭市議会公明党議員団行政視察報告書

<p>* 報告者</p> <p>団長・野沢宏紀</p>
<p>* 行政視察参加議員名</p> <p>野沢宏紀、松島緑、生本富士代、計3名</p>
<p>* 行政視察日程</p> <p>令和8年5月21日（木）</p>
<p>* 行政視察項目</p> <p>5月21日（木） 北海道小樽市 「小樽市官民連携プラットフォーム otaru open base」の取り組みについて</p>



三井水遊園「噴泉式遊樂路」

小樽市議会事務局

局長 中村弘二

〒047-8660

北海道小樽市花園2丁目12番1号

TEL : (0134)32-4111 内線502

(0134)22-2847 (直通)

FAX : (0134)32-5032

E-mail : nakamura-ky@city.otaru.lg.jp



小樽水遊園

小樽市議会事務局

議事課

書記 越智美幸

〒047-8660 小樽市花園2丁目12番1号

TEL : (0134)32-4111 内線502

TEL : (0134)22-2847 (直通)

FAX : (0134)32-5032

E-mail : cky@city.otaru.lg.jp



小樽水遊園

小樽市総合政策部
官民連携室主幹

木間 洋輔

Kozuma

Yosuke

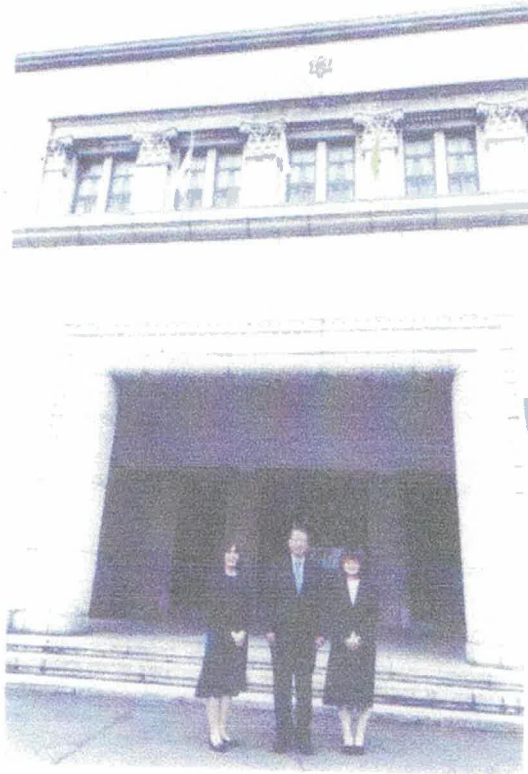
〒047-8660

小樽市花園2丁目12番1号

TEL : (0134)32-4111 内線502

FAX : (0134)22-6727

E-mail : kozuma-ys@city.otaru.lg.jp



研修会場・北海道小樽市議会
研修項目・「小樽官民連携プラットフォーム otaru open base の取り組み」について
報告者・野沢宏紀
<p>* 研究研修内容 *</p> <p>「小樽市官民連携プラットフォーム otaru open base」について視察研修をさせていただきました。同事業は、市民ニーズや地域課題が複雑化・高度化し、行政単独では課題解決を図ることが困難な時代を迎える中、まちの持続的な発展のためには、民間の持つ技術や発想を生かした課題解決が有効と考えられる。その上で、官民連携を推進するための新たな仕組みとして、小樽市独自の官民連携プラットフォームをホームページ上に開設し、そこに各部が抱える地域課題等を掲載・公開し、民間企業等から解決に向けた提案を募ることとした、とのことであります。開設日は、令和8年3月30日であります。また、この「otaru open base」との言葉に込められた意味としては、官民連携を通じて、地域課題等の解決と新たな価値創出につながる取り組みを生み出していくため、民間企業や大学などに広く間口を開く土台の場、とのことであります。提案の受付方法には2つあります。(1)としては「テーマ型」(産業振興、市政運営の基本姿勢、子ども・子育て、市民福祉、生活基盤、環境・景観、生きがい・文化)で、各部より提出のあった12件のテーマ型課題をホームページに掲載。(今後は随時、各部より課題掲載の希望を受け付け、追加掲載を予定)。(2)としては、「フリー型」で、民間企業等の自由なアイデア・ノウハウによる地域課題等の解決につなげる提案を募集。現状(視察日時点)では、民間等から7件(テーマ型5件、フリー型2件)の提案があったそうであります。今後は、その提案に沿って、協議を重ねていくことになる、とのことであります。この事業は、実質的には令和8年度からスタートした事業であります。既に7件もの提案があった、とのことで、その点については非常に感心しました。通常、ホームページ上に掲載しただけでは、相当に関心がない限り中々応募提案がないのではないか、とっていました。そこで、その点についてお聞きしたところ、この事業を開始するに当たっては、その前から小樽市外の各種企業団体等からも課題の共有等があり、その延長線上での事業実施となったところでもある、とのことであります。やはり、常日頃から民間等との対話活動が重要であると感じました。そして、それは、担当者による地域課題を解決する方策を見つけ出したい、との情熱あふれる行動に現れるのではないかと感じたとおりであり、大変に敬服したところでもあります。この事業の注意点としては、企業等からの提案の中には、自社等の製品の売り込みのようなものもあり、特にフリー型の提案については、その判断の難しさもある、とのことであります。どの地域にあっても、地域課題は複雑多岐であります。その解決策は、行政だけではなく、住民や企業団体の民間活力の知恵を生かすことで、その解決策を探っていく、そのひとつの取り組みとして、大変に参考になりました。</p>

研修会場・小樽市議会

視察項目・「小樽市官民連携プラットフォーム Otaru Open Base」について

報告者・松島緑

市民ニーズが多様化する中で恵庭市では、今年度より市民がまちづくりへの参画を図り、行政施策に市民意見を反映させる事を目的とした市民参画の場として「市民提案制度」を開始

市民、法人、団体からの提案でより良いまちづくりや地域課題解決につながる取り組みです。今後更により効果的な取り組みとなる為に、小樽市が先行して進めている「小樽市官民連携プラットフォーム Otaru Open Base」について視察。

小樽市では地域課題が複雑化・高度化する中で行政単独では課題解決が困難なことも多い中で、令和6年7月に札幌市より、「SAPPORO CO-COOPERATION サッポロ・ロコ・クリエイション」ポータルサイトへ札幌連携中枢都市として小樽市へ要請があり12月から掲載。ポータルサイトは民間事業者から地域課題や行政課題の課題解決につながる提案を常時受け付け、実現に向けた札幌市の官民連携事業（公民連携）事業です。掲載後小樽市へ10件要請あり2件連携に至っていた。このことがきっかけとなり、小樽市は民間企業からどの様に見えるのか、札幌市や道外へ出向き民間企業へ調査。また、庁内の課題はどの様なことがあるのか調査研究後に、小樽市独自で令和8年3月30日より「小樽市官民連携プラットフォーム Otaru Open Base」を開設、市が抱える課題を公表し民間企業や大学など解決の提案を受ける提案型と民間側から自由な発想により提案を受けるフリー提案型の二つの方式を採用し掲載。開始より7件応募となっている。これまで企業へフットワーク軽く出向き小樽市の課題やPR活動を地道に行い、その積み重ねで人間関係も広がり事業の趣旨も民間事業者にも事前に伝わっていることで、開始わずかでも応募企業が多数となっていた。地域課題を行政側が公開し民間企業と事業化とする新たな取り組みは、まちづくりへの様々な課題をプラスに変えたことは、担当者の熱意を感じました。恵庭市としても市民だけではなく更に民間企業からの提案についても調査研究すべきではないかと感じ大変に参考となる視察となった。

研修会場・小樽市役所
研修項目・小樽市官民連携プラットフォーム「Otaru Open Base」について
報告者・生本富士代
<p>*研修内容*</p> <p>今年度、恵庭市では「市民提案制度(案)推進事業」の制度設計に取り組んでいる。まちづくりに対する意見や地域課題の解決につながる企画やアイデアを、官民連携で取り組んでいる小樽市では、どのような形で提案を受け、施策として形成していくのか参考にしたいという考えから、小樽市の取り組みを視察先に選んだ。</p> <p>経緯として、令和6年7月に札幌市が官民連携中枢プラットフォームを展開した時に、小樽市も誘われ初めて参加した。令和7年度からは小樽市独自のプラットフォームを立ち上げ、民間企業とつながりながら企業訪問に取り組み現在に至る。</p> <p>この制度は、各所管部が抱える地域課題を吸い上げ精査し、テーマを分類し官民連携のプラットフォームに公開。民間企業から解決に向けたアイデア等を募集する。それを市の担当である総合政策部官民連携室でマッチングさせ、市の支援事業として発展させていく仕組みである。</p> <p>提案の受付方法は、市が分類した地域課題に対し提案を募集するテーマ型と、自由なアイデア・ノウハウによる提案を募集するフリー型の二種類である。一般市民からの提案は受け付けておらず、あくまでも民間企業と小樽市が共同して地域課題を解決していくシステムとなっている。</p> <p>実績については、今年度からスタートした事業であるため実現した事業数は現在、0件である。所管部から吸い上げた地域課題12テーマに対し、7件民間企業より提案があり（テーマ型に5件、フリー型に2件）現在協議中とのことで、手を挙げているのは、いずれも道外首都圏の企業からとのことである。</p> <p>恵庭市との違いは、提案者が市民か、民間企業かということになる。ここで地域課題の解決を民間と連携するメリットは何かと質問した所、行政だけでは時間がかかるが民間のノウハウを活かすと具体的に進められること、また民間企業の実績作りや、地域貢献になるという理由であった。</p> <p>この事業の主な課題としては、庁舎内全体の職員の醸成となっていないことを挙げられていた。職員一丸となった熱量がないと中々進めていけない現状との事である。</p> <p>今年度から本実施の事業に、既に7件の提案を受けていることに驚いたが、小樽市の知名度の高さから、道外企業からの提案に至っているのだろうと感じた。私が少し残念に思えたのは、地域課題の解決には、地元企業と連携してお互いに市の発展に寄与していくことが大切なのではないかと感じた。新しい施策や変化に向けて環境を整える時は大きなエネルギーを必要とするが、それに挑戦することが市民生活の向上につながるのではないかと考える。説明者の職員の熱量も伝わってくる内容と同時に、時間をかけて信頼関係を築き上げることの重要性も感じとれた貴重な視察であった。</p>